連珠っておもしろい

九段　河村典彦

●第132回●

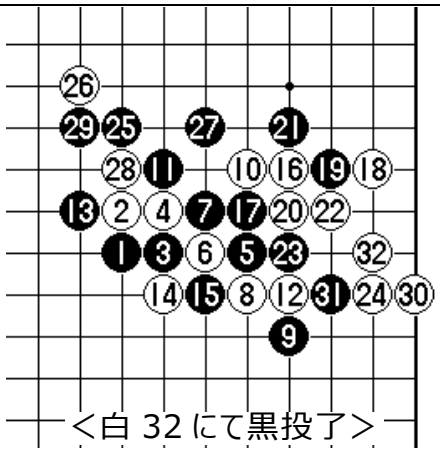
■実戦復帰したけれど…

昨年10月で定年を迎え11月から週3日勤務に変わった。さあ連珠に集中しよう、と思っていたが、娘に子供（私から見ると孫）が生まれたり、詰連珠ドリルの問題作成などで案外時間を取られていた（アイドル鑑賞なども増えてしまったが）。こういう時は強引に実戦復帰して危機感を持つしかないと思い、正月の三上杯、4月の珠王戦に出てみた。まずは「多く負けること」を目標？としたが、ただ負けるのではなく、真剣勝負をして脳に汗をかき、研究を進めるのが目的であった。予想通りというか、結果は惨敗であった。しかも序盤から終盤まで課題が多く見つかった。これはマズイ、というのが今の感想である。五珠交替打ちになり、理論的には直間で1つずつ得意珠型を持ち、残りの珠型は白4の作戦を用意すれば対応できる。しかし、今回（特に珠王戦）では用意した作戦を披露できなかった。実戦はまあこんなものであるだろうが、変化に対応ができていないのが如実にわかった。実戦経験が多い宮本さん、丸田（浩）君に負けたのはその好例だろう。名人戦1次予選に向けて急ピッチで対応していくつもりであるが、間に合うかどうか不安である。では、反省を含め何局か振り返ってみたい。

●珠王戦第1局

白　四段　吉川知希

第1局は吉川君と。彼は今年から中学生だが、もうすぐ五段になるほどの実力である。中学生と言えば、私が初めて京都連珠会に参加した時に早川強君と当たり負けた記憶がある。今はその時に近い心境だった。



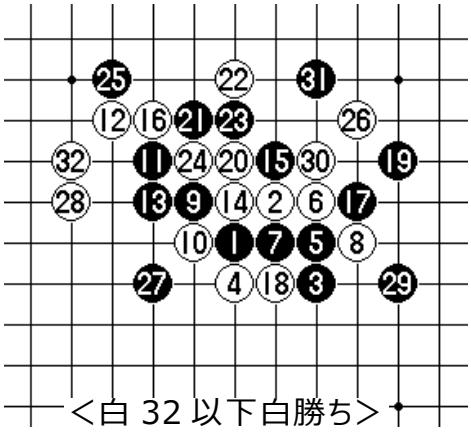
<白32にて黒投了>

雲月雨月は絶対指定する人がいるだろうから白4の作戦を用意していた。すかさず白を取られ白8と引かれたのが予想外だった。局後に「カタゴでは白8と引く手が第一推奨手です」と言われ、なるほどそうか、最近はソフトと戦う必要があるのかと納得した。そしてうまそうに見えた黒13が敗着で、白14からきれいに勝たれてしまった。このあたりは当然基礎知識なのだろう。早くも知識不足が露呈することとなった。黒13では31に止めておく所らしい。

●珠王戦第3局

白　七段　宮本俊寿

3局目の宮本戦を紹介しよう。宮本さんとは初対局で、普段打てない方と打つのも楽しい。



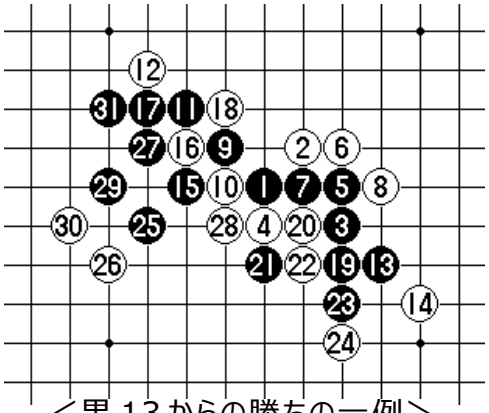
<白32以下白勝ち>

水月を指定されたので、私の方が白を取ろうと白4を打つ。これに黒5と打たれたのが珍しい。宮本さんの作戦にハマるが、黒を取るしかない。こういう時は

早めに変化した方が相手も困るのは私もよく理解しているので黒9と打ってみた。局後に調べたらこれで黒良いようだ。当然の白10に黒11、13しかないと思って打ったのだが、これがあまり良くなかった。黒15で互角の混戦になったようだ。黒17はこう打つのが普通だろうと思ったが、ここは18、19と引いた方が良かった。

その後の展開があまり良くなく、黒29、31がぬるかった。このあたりは苦戦を感じていたので時間を残そうと思ったのだが、もう少し考えるべきであった。白32に打たれては形勢逆転である。最後も読み間違いで結局負けてしまった。序盤を乗り切っても中盤以降がダメダメであると痛感した。

ソフトで調べたら黒13ではこのように打つべきであった。特に黒15はなかなかない手で思い浮かばない。しかし、ここで素早く勝ってしまわないと、黒有利が失われる。

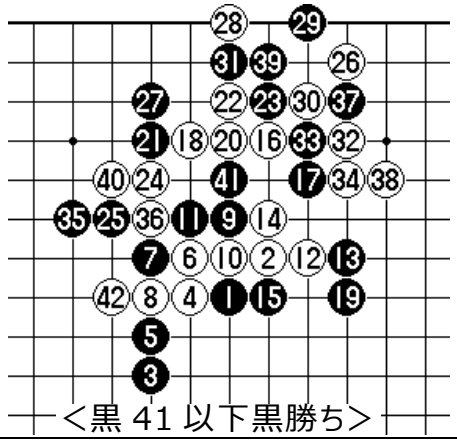


<黒13からの勝ちの一例>

●珠王戦第4局
黒 韓国 Kang

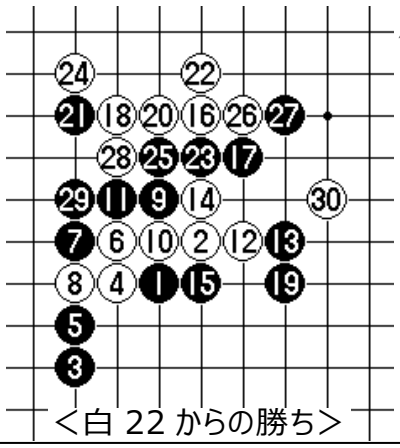
第4局（2日目第1局）は韓国の Kang 君である。Kang 君は昨年の珠王戦の覇者であり、日本のA級棋士ぐらいの実力はある。対局を楽しみにしていた。

ようやく彗星を指定できたが、疎星共通に戻された。これも相手の方が数倍知識があると思ったが、やむを得ない。黒9に白10と入ったがこれが彼の思考を狂わせたようだ。黒11に何かありそうと直感し、思い切って攻めてみた。白16がこういう時の常道手段で、彼も見た瞬間うなずいていた。



<黒41以下黒勝ち>

白22と打った時は勝っただろうと思っていたが、黒23、27、29と絶対止めを連発され、あれ？勝てないなと焦ってしまった。黒31後に四々禁かと思いきや左辺で黒に逆転の四追いがあることに気づき、泣く泣く白32、34と打ったが、それなら先に40と打つ手があった。結局負けてしまったが、こういう負けは価値がある。



<白22からの勝ち>

後でソフトで調べたら、何と簡単に勝ちがあった。この四々禁は読みの途中には出てきていたが、最初から狙う発想はなかった。

最終局の丸田(浩)戦も、さあこれから勝ち、という局面で勝ちを焦り逆転の四追いをされた。しかもノリ切り勝ちである。詰連珠ドリルで散々こういう問題を出しておきながらそれを打たれるとは情けない。まだまだ先は長い。